

# 1. 高齢者お達者プランの実績について

## (2) 高齢者福祉計画第 6 期 2 年目の 実績について



加賀市健康福祉部長寿課

平成 29 年 5 月 18 日

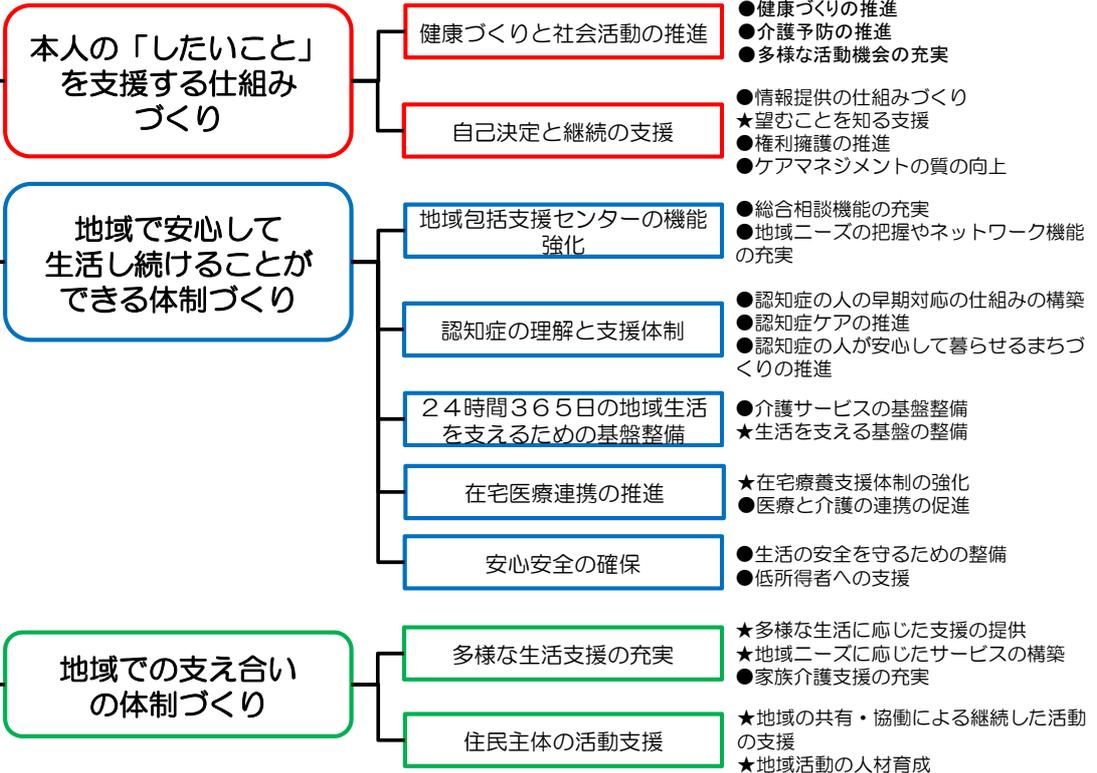


# 第6期計画の施策体系

高齢者が住みなれた地域で支えあいながら、その人らしく自立したくらしを継続できる社会を実現する。

6期 基本目標

6期 基本施策



★：第6期で主に新規の事業となる取り組み

基本目標

**本人の「したいこと」を支援する仕組みづくり**  
 「したいこと」を自分が知り、自分が決めて、自分で行うことを支援する仕組みを作る。

基本施策

## 1. 健康づくりと社会活動の推進

- ・若いときからの健康づくりや早期の介護予防に対応する取り組み
- ・就労やボランティア活動、趣味活動等の生きがいつくりの活動機会の充実

## 2. 自己決定と継続の支援

- ・自分を客観的に見つめ、望むことを知るための支援
- ・権利侵害から守るための普及啓発
- ・本人の生活を中心に人や地域との関係性を保つケアマネジメント

# 第6期計画における重点的取り組み①

## 1. 健康づくりと社会活動の推進

### ◆介護予防・日常生活支援総合事業

平成28年3月から事業を開始し、1年が経過した。現在は、現行の通所介護、訪問介護の内容に留まっているが、通所介護の実態把握調査を元に、平成29年9月を目処に新たな通所型サービスの実施を行う。また、ボランティア活動、趣味活動等の生きがいづくりの機会の充実として、地域型元気はつらつ塾やかがやき予防塾を継続実施していく。特に、かがやき予防塾修了生においては、地域型元気はつらつ塾の協力員や認知症ケアパスの啓発普及活動をおこなっている。今後も住民と共に一緒に考え、取り組んでいくことを大切に実施していく。

### ◆介護支援ボランティア制度事業

平成27年6月から開始したが、ポイント交換者数は36名であった。平成28年度は、80名と目標値(目標値25)を大幅に上回っている。もともと、介護サービス事業所でのボランティアを対象としていたが、地域型はつらつ塾での活動もボランティアの対象としたため、目標値を上回ったと思われる。生きがいや健康づくりに役立つよう今後も周知していく。

# 第6期計画における重点的取り組み②

## 2. 自己決定と継続の支援

### ◆わたしの暮らし手帳

認知症になっても自分らしく暮すために、どんなふうに暮らしていきたいかを書き示す「わたしの暮らし手帳(認知症ケアパス)」を平成28年3月に作成した。作成に当たっては、認知症ケアパス検討会を平成27年度から開催し、内容、啓発普及方法について意見交換してきた。平成28年度には、かがやき予防塾修了生、ランチと共に、啓発普及の試行実施をし、評価修正を行った。今後は地域おたっしゅサークルから、啓発普及を実施していく予定としている。

### ◆権利擁護庁内連絡会

虐待対応について、虐待者が誰であろうと、市として共通の対応ができることを目的とし、平成27年度より年3回実施している。1年目は、課題整理、研修会を実施し、2年目は、事例を通して支援方針の確認、ケースに対する振り返り等を実施し、市として共通理解を図ってきた。また、地域包括支援センター内の定例虐待ケース検討会にも、必要時他課の職員も参加し、世帯として支援できるように取り組んでいる。今後も継続し、市全体として、虐待支援のあり方について意見交換し、実践に生かしていく。

# 地域で安心して生活し続ける ことができる体制づくり

たとえ認知症やどんな状態になっても、地域で暮らし続けることができる体制を作る。

## 1. 地域包括支援センターの機能強化

- 本人のニーズと地域の資源を繋げる総合相談機能の充実
- 地域ニーズの把握やネットワーク機能の充実

## 2. 認知症の理解と支援体制

- 認知症の人の早期対応の仕組みの構築
- 本人や家族の立場にたった認知症ケアの推進
- 認知症の人が安心して暮らせるまちづくりの推進

## 3. 24時間365日の地域生活を支えるための 基盤整備

- 24時間365日の在宅生活を支える介護サービスの拡充
- 在宅生活を支える福祉サービスの提供
- 介護保険事業の適正化の推進

## 4. 在宅医療連携の推進

- 在宅で必要な医療が受けられる支援体制の強化
- 医療と介護が切れ目なく提供される連携の促進

## 5. 安心安全の確保

- 緊急時や災害時に安全を確保できる体制の整備
- 各種制度を利用した低所得者への支援

## 第6期計画における重点的取り組み③

### 1. 地域包括支援センターの機能強化

#### ◆地域包括支援センターのブランチ

身近な地域でいつでも相談できる拠点や人材を配置した地域包括支援センターのブランチを平成27年度より設置し、現在11箇所設置した。早期のかかわりによる予防的な支援、相談機能、緊急時の対応機能、必要時の生活支援機能、その他個々のケースに応じたマネジメント機能を有することにより地域の様々なニーズに対応している。

相談延べ件数も目標値の1,100件を超え2,652件であり、また、ブランチでの新規相談実件数は147件になっており、基幹型地域包括支援センター以外の相談場所として、地域に周知され相談窓口として理解されてきていると思われる。今後は、実態把握から地域の課題を整理し、地域住民とともに課題解決できるよう「地域ケア会議」の開催が課題である。

## 第6期計画における重点的取り組み④

### 2. 認知症の理解と支援体制

#### ◆認知症初期集中支援チーム

認知症の人やその家族に早期に関わるチーム（医師1名、専門職2名）を派遣し、早期診断・早期対応に向けた支援体制を認知症初期集中支援チームという。平成28年度に設置検討会を行い、3月に設置となった。設置検討会では、対象者、認知症初期集中支援チームの位置づけ、主治医との連携のあり方、チーム員会議の実施方法、評価シートの選定など検討した。

今後は、ケアマネジャー等介護保険サービス事業所への周知、広報で住民周知していき、このチームの目的、機能など理解をすすめていく。ケース支援の方向性を検討するチーム員会議は専門医を1名配置し、月1回実施していく。

## 第6期計画における重点的取り組み⑤

### 3.24時間365日の地域生活を支えるための基盤整備

#### ◆生活支援サービス事業の構築

生活支援を担う人材を育成するための養成講座(旧ヘルパー3級相当のカリキュラム)を実施しているが、受講生が少ないのが課題である。現在、講座終了後には、家事支援サポーターとして、シルバー人材センター及び加賀農業協同組合に登録し、26名が活動している。

また、サービスの利用者は目標値(28人)を越え45人である。今後は、養成講座の周知啓発について検討を行い、元気高齢者が担い手になり、活躍できるよう実施していく。

#### ◆小規模多機能型居宅介護の整備

国が示す小規模多機能型居宅介護の整備目標数に不足している圏域での整備を行い、平成29年4月1日に庄地区、分校地区の2地区が開設され、整備が終了した。

## 第6期計画における重点的取り組み⑥

### 4. 在宅医療連携の推進

#### ◆在宅医療・介護連携推進事業

平成28年度は、医療と介護の連携ワーキングを3回実施し、本人の暮らしのために医療職、介護職がお互いどのような課題があるのか整理をし、その取り組みの1つとして、薬についての勉強会を他職種で実施した。

また、加賀市医療センター内地域連携センター「つむぎ」に、専門職からの相談を受ける在宅医療コーディネーターを平成28年4月に配置。在宅で暮らす高齢者の病気や症状などの相談に対応している。平成28年度では、32件の相談があり、主にケアマネジャーからの相談が多い。

### 5. 安全安心の確保

#### ◆安心メールの設置

行方不明となった高齢者をいち早く発見できるように、警察との協力体制のもとメールによる情報配信を行う体制を構築した。警察へ捜索願を提出された方で、安心メール配信の希望をされた方に、早期発見のための情報を安心メール登録者へ配信する仕組みである。平成28年度は7件の配信があり、64歳から80歳までの方であった。

## 地域での支え合いの体制づくり

地域住民が自ら考え、安心して住み続けることができる地域のために、できることを考え取り組める体制を作る。

### 1. 多様な生活支援の充実

- 本人への支援が広がる働きかけや取り組みの推進
- 地域で個々のニーズに応じた生活支援サービスの構築
- 介護をしている家族に対して支え合える地域の推進

### 2. 住民主体の活動支援

- 互いに地域で暮らすことを支え合うまちづくりの推進
- 地域活動の担い手の育成

## 第6期計画における重点的取り組み⑦

### 1. 多様な生活支援の充実

#### ◆地域福祉コーディネート業務

ランチ設置にあわせ、地域福祉コーディネート業務を担う事業責任者を11か所に配置した。軒下マップを活用し、多様な地域資源と高齢者を繋ぐためのコーディネートはできているが、個の支援の課題整理から地域へ課題を投げかけ、一緒に解決する取り組みはまだできていない。

今後は、ランチ活動の実態把握から、地域課題を整理し、個別及び地区の地域ケア会議を行い、地域づくりへ発展していくことを目指す。

### 2. 住民主体の活動支援

#### ◆地域ケア会議

地域ケア会議実施数は目標値(36回)を下回り14回の実施であった。

地域型元気はつらつ塾開催の地区において、地区の高齢者の介予防活動の在り方等を地域の方と検討しており、継続して実施していくことで、自らの地区の課題において、自らが考えて取り組むことを目指している。

今後は、個別のケア会議から地域の課題の把握や、その課題の解決につながるよう住民、事業者、行政と一緒に考える場の設定や継続的な支援に向けて、地域ケア会議を実施していく。